



KIRIN R&D DAY 2025

オープニングリマーク

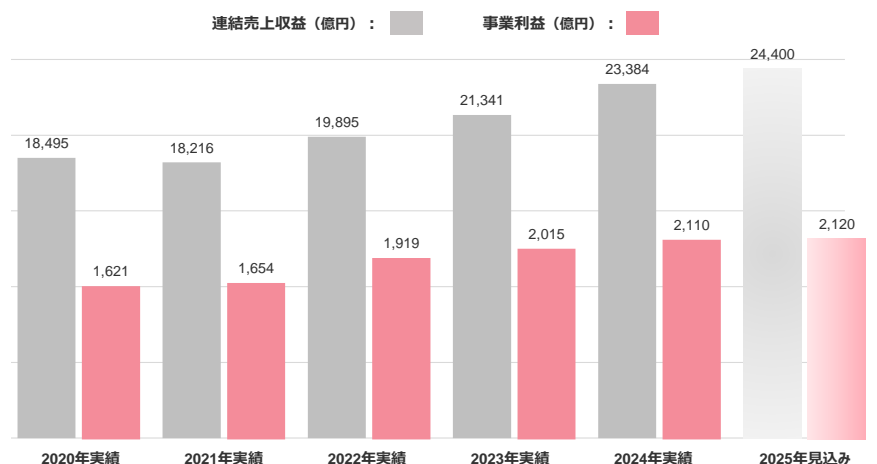
2025年12月17日

キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長COO 南方 健志

- 皆さま、こんにちは。キリンホールディングスの南方でございます。
- 本日はご多用の中、「KIRIN R&D DAY 2025」にご参加いただき、誠にありがとうございます。
- 今年は、2人の日本人科学者がノーベル賞を受賞されましたが、原理原則を追求する基礎研究によって、画期的なイノベーションに繋がる道筋を示され、大いに勇気づけられる出来事となりました。
- キリングループも、サイエンスを軸に価値を創造する企業グループを目指しておりますが、具体的な研究開発の取り組みをご紹介します場として、このたびは5年ぶりの開催となりました。
- この間に、私たちは酒類・飲料・医薬に加え、ヘルスサイエンスの事業基盤を整え、持続的な成長を実現する独自の事業ポートフォリオを構築しました。
- 本日は、これまでの振り返りとともに、直近の取り組みをご説明させていただく中で、皆様のご理解を深める一助となれば幸いです。

▶ 2020年以降、酒類・飲料・ヘルスサイエンス・医薬からなる事業ポートフォリオを構築し、着実に業績向上

連結売上収益・事業利益推移



© Kirin Holdings Company, Limited

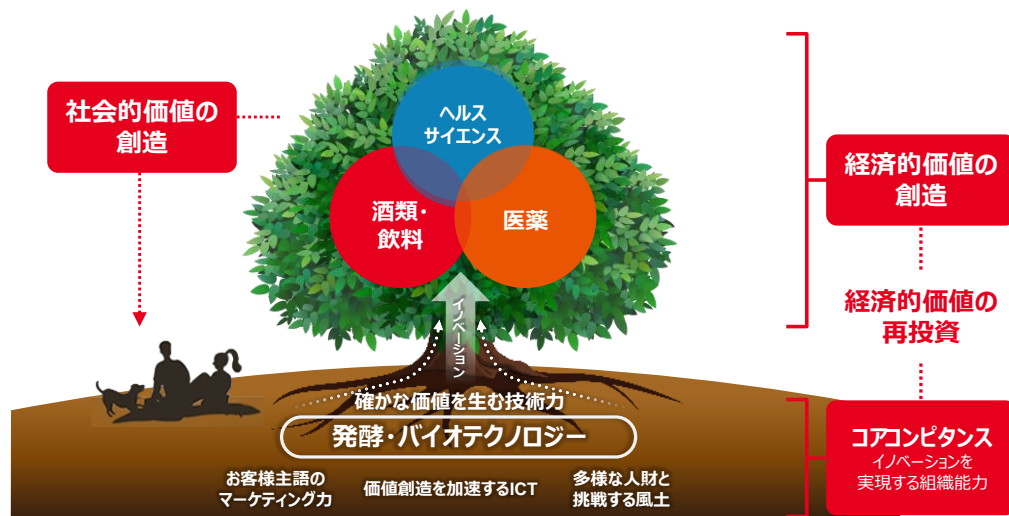
2年連続過去最高益

ヘルスサイエンス事業
収益化基盤の整備

2

- 2020年以降の売上収益、事業利益の推移を示したのですが、この間、酒類・飲料・ヘルスサイエンス・医薬からなる事業ポートフォリオを構築しながら、着実な成長を実現してきました。
- 2023年度、2024年度と2年連続で過去最高益を達成し、2025年度も計画に対して順調に進捗しています。
- およそ40年前に立ち上げた医薬事業も成長のけん引役となっており、2024年度におけるグループ連結事業利益に占める割合は44%に達しました。
- 2019年から立上げたヘルスサイエンス事業についても、ようやく、グループ全体の収益性向上に貢献できる基盤が整いました。
- この背景には、R&Dを軸としたイノベーションの積み重ねがあったことは間違いありません。

- ▶ 祖業であるビール事業で培った発酵・バイオ技術をコアコンピタンスとして酒類、飲料、ヘルスサイエンス、医薬で価値創造を目指す
- ▶ 食から健康、医にわたるニーズに応える3領域でイノベーションを創出していく



© Kirin Holdings Company, Limited

3

- キリングループの強みは、ビール事業で培った発酵・バイオ技術をコアコンピタンスとし、「飲料」「ヘルスサイエンス」「医薬」の領域にも応用し、価値創造を行っている点にあります。
- これは、飛び地への事業拡大ではなく、発酵・バイオ技術を軸にしたスキル・ナレッジの活用ができる事業への参入です。
- キリングループだからこそ構築可能な「酒類・飲料」「ヘルスサイエンス」「医薬」事業を通じて、グローバルでイノベーションを起こし続け、社会課題解決をリードするCSV先進企業となることを目指します。

➤ この10年においてもR&Dによる成果が、お客様・患者さんの課題を解決し、各事業領域の発展を支えてきた



長年の醸造知見と、糖質オフ技術や脱アルコール技術との融合により、「健康に気づかいながら美味しいビールを飲みたい」というお客様のニーズを充足



健康食品初※の恩賜発明賞の受賞に至った、日本初の免疫機能表示の達成につながる発明（特許第6598824号）で、2020年以降の社会不安の高まりに対して免疫ケアという解決策を訴求

※免疫機能に働きかけるプラズマ乳酸菌が、健康食品素材として恩賜発明賞を受賞



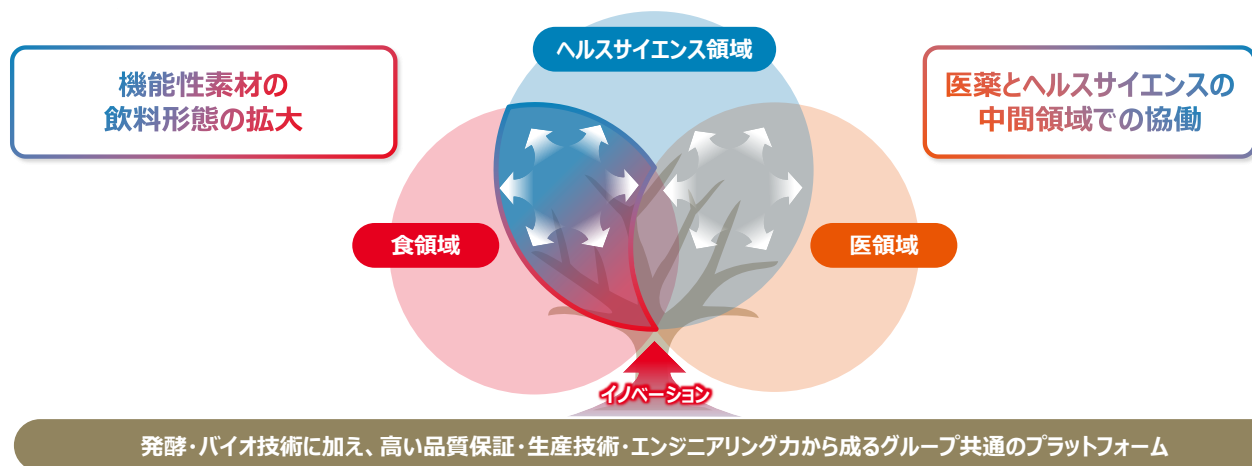
骨の異常につながる低リン血症に関わる因子（FGF23の機能）を発見し、完全ヒト抗体技術を活用した創薬により、骨や関節に障害をきたす、低リン血症性くる病・骨軟化症の患者さんに対して画期的な解決法を提示

© Kirin Holdings Company, Limited

4

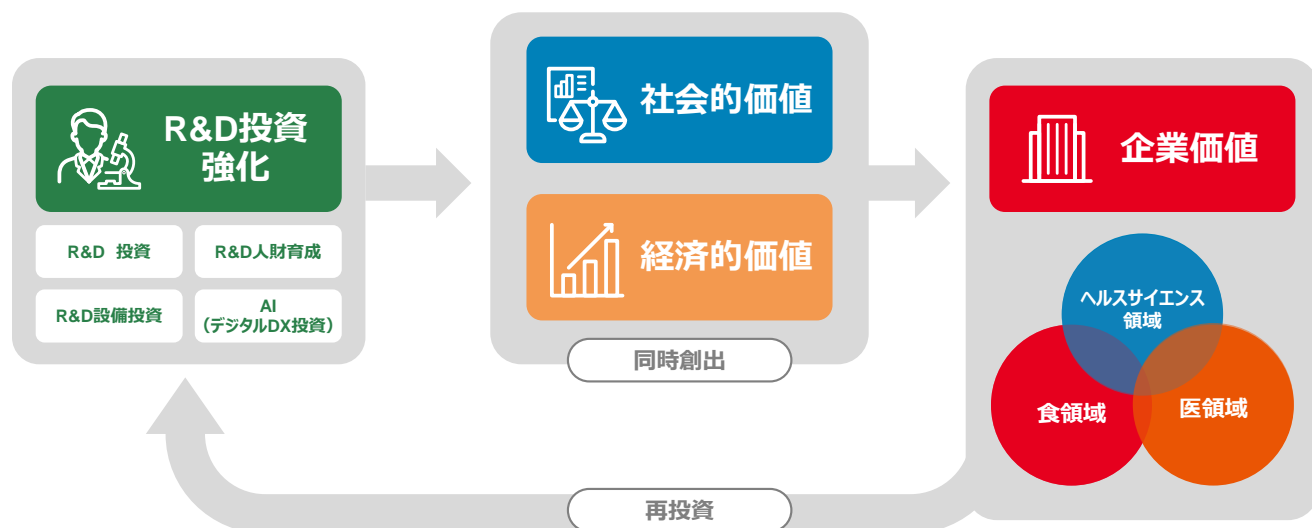
- この10年のR&D成果事例を示していますが、例えば、ビール事業では、麒麟ビールの「一番搾り 糖質ゼロ」という日本初の画期的な商品があり、豪州では、麒麟の糖質オフ技術をライオン社で活用することで、主力ブランドでUltraシリーズを発売し、現地の健康志向にマッチするヒット商品を生み出しました。
- 医薬事業では、骨の異常につながる低リン血症に関わる因子を約20年前に発見し、完全ヒト抗体技術を活用した医薬品「クリスビータ」がブロックバスターとなり、協和麒麟の成長をけん引しています。
- これは、低リン血症性くる病・骨軟化症という骨や関節に障害をきたす患者さん、例えば、歩行困難だったお子さんがサッカーを出来るようになるなど、Life changingな医薬品となっています。
- ヘルスサイエンス事業では、日本初の免疫機能表示の実現につながったプラズマ乳酸菌が、免疫の重要性を啓発する存在となり、恩賜発明賞を受賞しました。

- ▶ R&Dによるイノベーションで、3領域とその重なり部分にある社会課題の解決力をさらに強化していく
- ▶ 人財や知財を事業横断で活用し、イノベーション創出と社会実装を加速していく



- 今後は、R&Dによって、それぞれの事業領域の成長をドライブするとともに、事業と事業の境界線や重なりにある生活者の課題解決にも貢献したいと思います。
- これは、発酵・バイオ技術に加え、高い品質保証・生産技術・エンジニアリング力から成るグループ共通のプラットフォームがあるからこそ、可能であると考えています。
- すでに、事業を越えた、人財や知財の活用を開始しており、今後、イノベーションを創出し、R&Dの社会実装を更に加速していきます。
- 例えば、機能性素材の飲料形態による拡大や、医薬とヘルスサイエンスの中間領域において、医薬品にとどまらない検査や肌のアピランスケアでの協働などを、進めています。

- ▶ R&D投資を強化し、社会価値と経済価値の同時創出による持続的成長を行う
- ▶ 獲得した経済的価値を組織能力に再投資する循環によって2つの価値を持続的に増幅させる



© Kirin Holdings Company, Limited

6

- グループとして、R&Dに継続的に投資していくことは、持続的成長に不可欠であると私は考えています。
- 正直、現状は酒類・飲料・ヘルスサイエンスについては、国内競合会社やグローバルヘルスサイエンス企業と比較して優位にある水準とは言えません。
- 今後は研究開発投資を強化し、新たな研究パイプラインの創出加速、スター研究員の育成、先進的な設備やAIへの投資を行ってまいります。
- 事業成長にともなって得られたキャッシュを組織能力に再投資することで、成長の好循環を生み出し、持続的成長と企業価値向上を果たしていきます。
- このあとは、今年からR&D戦略担当役員となった藤原より、キリングループのR&Dの具体的な戦略についてご説明いたします。
- それでは、KIRIN R&D DAY 2025を開始いたします。



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together